民生福祉常任委員会会議記録

- 1 日 時 令和6年8月8日(木) 午後1時25分から午後3時22分まで
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 茂木委員長、星野副委員長、鈴木、齋藤(育)、井上、戸部 各委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明者 角田市民部長、信澤債権管理課長、根岸環境課長
北澤健康福祉部長、安原社会福祉課長、阿部子ども課長、
小野介護高齢課長、鶴洲健康課長
- 6 事務局 武井事務局長、大島議事係長
- 7 議 事
 - (1) 市民部各課の所管事項報告・調査事項説明
 - (2) 市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換
 - (3) 健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明
 - (4) 健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換
 - (5) 今後の日程について
 - (6) その他
- 8 会議の概要
 - (1) 市民部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 それでは、次第(1)市民部各課の所管事項報告・調査事項説明を行う。
まず、債権管理課の所管に係る事項について報告願う。債権管理課長。
(信澤債権管理課長 報告)

ア 債権管理課 ・報告事項

- 1 令和6年度群馬県・市町村不動産合同公売の実施について
- 2 債権放棄に関する議会への報告について

○債権管理課長 債権管理課の所管事項について報告する。

まず、報告事項1「令和6年度群馬県・市町村不動産合同公売の実施について」説明する。資料2ページを御覧いただきたい。

市税等の収入と納税の公平性の確保を図ることなどを目的として、毎年、群馬県及び県内市町村では差し押さえた不動産の合同公売を実施している。

今回の合同公売における本市の公売財産は2件である。公売の方法は期間入札とし、公売公告の期日は8月14日を予定している。また、入札期間は11月5日から15日までとし、開札期日は11月19日、県下一斉に同一のスケジュールで実施される。入札は郵送でも可能であり、開札は各執行機関で行う。

なお、公売財産については、市内の不動産を予定している。

次に、報告事項2「債権放棄に関する議会への報告について」説明する。

資料3 ページを御覧いただきたい。

(1)の資料は沼田市債権管理条例の抜粋である。

第15条第1項において「債権管理者は、非強制徴収債権について、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該債権及びこれに係る損害賠償金等に係る債権を放棄することができる。」とされており、また、同条第2項において「債権管理者は、前項の規定により非強制徴収債権を放棄したときは、これを議会に報告しなければならない。」とされている。この規定に基づき、令和5年度中の債権放棄について7月23日付で市議会議長宛に「債権放棄報告書」を提出したことを報告する。

次に、債権放棄の内訳について説明する。

資料4 ページを御覧いただきたい。放棄した債権は合計16件、金額は254万2,070円である。債権ごとの該当事由の内訳は資料に記載のとおりである。

また、本委員会の所管に係るもの以外にも放棄した債権がある。

説明については資料3 ページ、(2)を御覧いただきたい。

この資料は沼田市債権管理条例施行規則の抜粋である。

第3条第2項第4号において債権放棄に関する事務は、債権管理課長が分掌することとされているので債権管理課でまとめて報告させていただくこととなる。

債権管理課の報告は以上である。

○委員長 説明が終わった。

まず、報告事項1「令和6年度群馬県・市町村不動産合同公売の実施について」質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、報告事項2「債権放棄に関する議会への報告について」質疑はあるか。
井上委員。

○井上委員 単純にお聞きしたい。1号の生活困窮は生活保護に該当している世帯であると思うが、これは生活保護に該当する前にあった債権についてこうなったから困窮世帯ということで債権放棄になる可能性があるのかを確認したい。あと、4号の徴収停止は、実際に徴収停止になってからどれくらいの期間を経て債権放棄になっているか分かれば教えていただきたい。

○債権管理課長 生活困窮者の滞納分の債権放棄についてであるが、従前のところについては申し訳ないが、今、答えられるものは持ち合わせていない。例えば、債権者が生活困窮の状態にある場合には生活保護を受けているとか、これに準ずる場合などはその後の資力の回復が困難であって、相当期間あったとしても履行の見込みがない場合などについては債権放棄できることとなっているため、個々に調査を行い、該当者を債権放棄するという形になる。以前のところについては申し訳ない。

○井上委員 基本的には保護期間中の債権について放棄しているということか。

○債権管理課長 そうである。基本的にはそういう考え方になる。それからもう一つ。停止後の債権についてであるが……。休憩よろしいか。

○委員長 休憩する。

(休憩 午後 1 時32分から午後 1 時33分まで)

- 委員長 休憩前に引き続き会議を開く。債権管理課長。
- 債権管理課長 失礼した。確認して答えさせていただきたい。
- 委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

- 委員長 なければ以上で債権管理課を終了する。
次に、環境課の所管に係る事項について説明願う。環境課長。
(根岸環境課長 説明)

イ 環境課

- ・報告事項

- 1 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について

- ・調査事項

- 1 利根沼田一般廃棄物処理広域化施設整備協議会での検討状況について
- 2 環境フォーラムぬまたの来場者数と周知の状況について

- 環境課長 午前中は平川小水力発電所を見学いただき感謝する。

それでは、環境課の所管に係る事項について説明する。

まず、報告事項1「特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について」説明する。

資料6、7ページ、資料1を御覧いただきたい。

クビアカツヤカミキリについては、幼虫が桜などの木の内部を食い荒らす特定外来生物である。県内東部を中心に発生が確認されていたが、7月30日に沼田市内2か所において初めての確認がされた。

7ページの基本情報に記載のとおり、繁殖力が非常に高く、寄生する木は桜のほかに、梅、桃などの果樹もあり、被害が進むと景観の悪化や農業被害も心配される。

このため、8月1日にホームページ等により市民への周知を行うとともに、情報収集を行い、現状把握に努めている。今後の対応については、防除対策を進め、被害の拡大防止に努めていきたいと考えている。被害等が確認された場合には各所管課において対応することになると思うので庁内においても情報共有しながら対応していきたいと考えている。

8、9ページに参考としてチラシをつけたので後ほど御覧いただきたい。

報告事項については以上である。

次に、調査事項1「利根沼田一般廃棄物処理広域化施設整備協議会での検討状況について」説明する。

資料10ページ、資料3を御覧いただきたい。

この資料は7月22日に利根沼田広域市町村圏振興整備組合の7月の定例議員協議会において配付されたものである。これは施設整備に当たり、協議・調整が必要な項目をまとめたものである。項目1の共同処理する事務として、協定書で定めた事務、広域処理に伴う業務範囲、整備する施設、項目2の建設候補地の選定や項目3の施設整備スケジュール等

の調整方針欄に記載がある項目については、既に理事会において方針が決定されたものである。今後はそれ以外の項目について、順次、専門部会、幹事会において検討が重ねられ、理事会で諮られることになる。

次に、13ページ、資料4について説明する。

5市町村による広域化に伴い、一部事務組合である沼田市外二箇村清掃施設組合及び利根東部清掃施設組合の統廃合に係る協議事項をまとめたものである。既にそれぞれの組合は解散し、利根沼田広域市町村圏振興整備組合に統合していくことを決めているが、詳細についてはまだ検討中であるため、施設整備と同様に今後、専門部会、幹事会において検討し、理事会において諮られることになる。

検討状況については以上である。

次に、調査事項2「環境フォーラムぬまたの来場者数と周知の状況について」説明する。15ページ、資料5を御覧いただきたい。

表の一番右の列が今年度の状況である。6月23日曜日にテラス沼田1階で開催した。

来場者数は延べ人数で593人であり、昨年と比較すると194人の増加となっている。特に講演会は多くの人に来場していただき好評だった。

次に周知の状況について説明する。6月1日の広報ぬまた、6月15日の回覧板、市SNS、インスタグラム等による情報発信、6月中旬に学校を通じて小中学生へのチラシ配付、マイタウンたにがわに掲載依頼を行うなどをし、市民への周知に努めた。

説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。報告事項1「特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について」質疑はあるか。鈴木委員。

○鈴木委員 フラス、幼虫の糞と木くずが混ざったもの。これは他の虫と同じような形態なのか。この色でこの形は必ずこの害虫なのか。もし分かれば教えていただきたい。あと、ホームページ等で掲載された後、実際に情報が寄せられたか。どれくらい確認が取れているのか教えていただきたい。

○環境課長 まず、フラスについてである。フラスは昆虫によって特徴がある。このクビアカツヤカミキリであることを見分ける一つの目安になるので、特徴的なものとなっている。今の資料にはないが、そういったものがまとまった資料もあるので、その辺も含めて、改めて周知方法を考えていきたい。次に、市内の確認の状況についてであるが、直接、電話等でいただいたものはない。まず、7月30日に沼田公園と石墨町地内において、それぞれ桜と桃の木がある場所で確認されたということだった。8月3日には県が運営する「ぐんまクビアカネット」に戸神町で成虫を確認したという投稿があった。8月6日には沼田市運動公園内の樹木にフラスがあったと投稿があった。

確認の状況は以上である。

○鈴木委員 市内で実際に確認されていて、市民からの情報が寄せられていないとなると、市民がそもそもこの害虫がいることに気がついていない可能性があると思われるが、これから継続したそういった周知が図られるのか。また、こういった周知の方法がとられるのか、どのような検討がされているのか伺う。

○環境課長 市民からの情報という話であるが、一応、県では先ほど申し上げたぐんまクビアカネットというものがある。こちらが群馬県の自然環境課が運用している電子地図で

ある。目撃者がスマホ等でクビアカツヤカミキリの目撃情報を報告する形になっている。誰でもクビアカツヤカミキリの写真を撮って、その位置情報をアップすると、誰でも見られるような形になっている。そこに戸神町の情報などが上がっていたので、知らないということでもないような状況にはなっている。以前から市のホームページではクビアカツヤカミキリはまだ発生していない状況であったが情報提供をしていた。継続的に注意をしてくださいというようなことは発信させていただいている。今回初めて発生したということで、このような対応になっている。今後の広報については現状行っている方法に加えて、とりあえず取り急ぎ沼田市の公式LINEに掲示させていただいたりということで対応をしているが、さらにまた周知する方法があれば考えていきたいと思う。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項1「利根沼田一般廃棄物処理広域化施設整備協議会での検討状況について」質疑はあるか。井上委員。

○井上委員 協議中だったということなのでまだ分からないかもしれないが、一部事務組合統合協議のほうでほかの事務についても利根沼田の広域圏でということになっている。先日、見に行った利根東部の最終処分場、あのようなものも利根東部ではなく、利根東部をなくして、利根沼田の広域圏に持ってくるという方向になるのかどうか教えていただきたい。

○環境課長 利根東部の最終処分場についてであるが、私の承知している範囲では、埋め立ての容量が統合までもつかどうか分からないような状況になっていて、恐らくそこは処理場としては、現状の構成団体である沼田市と片品村とで継続して管理していくような形になると思う。そうしたことなので、私はあそこの施設自体が広域にはならないものと承知している。

○井上委員 利根東部衛生施設組合という組合自体は残るということになるのか。それとも組合をなくして、沼田市と片品村で協議の上、運営していくということになるのか分かれば教えていただきたい。

○環境課長 現状どうやって管理していくかということろまでは決まっていない。今後協議していく事項になっているかと思う。

○委員長 ほかに。戸部委員。

○戸部委員 一部事務組合の統廃合の方針と一番上に書いてあり、沼田市外二箇村清掃施設組合と利根東部衛生施設組合が第5回の理事会で統廃合の承認がされたと書いてある。これはいつの理事会なのか。知らなかったのでお聞きしたい。

○井上委員 第5回は今年の2月である。

○戸部委員 今年の2月ということは令和5年度である。令和5年度にこの廃止の方針が決定されたということか。第5回理事会で承認とある。

○環境課長 まず、合併というかその方向性は最初の協定を結んだ段階で「そういう方向で進みましょう」ということで協定が結ばれている。それを受けて、先ほどおっしゃられたように第5回で統廃合していくということが決定になったと承知している。

○戸部委員 それでは、今年度中にその統廃合の方針を決めていくのか。これからの流れ

を教えてください。

○環境課長 スケジュール感は今のところ示されていない。この合併においてどのような方向性になるかということ、今年度中に決まるかどうかということは答えられない。恐らくまだ決まらないかと……。こちらの施設整備と並行して行うのでなかなか順調にという形にはならないかと思う。

○戸部委員 沼田市外二箇村清掃施設組合の議員になっているが、その辺が分からなかった。今、聞いて統廃合になるのかと思った。その方針は今年度なのか、来年度になるか……。方針が決定になったというだけでそれ以上のことは決まっていないということによるのか。

○環境課長 おっしゃるとおり、現状ではまだ細かい内容の打ち合わせ、協議は進んでいない。まだ、決まっていないような状況になっている。

○委員長 ほかに。副委員長。

○副委員長 いただいた資料の12ページ、一番下のほうの施設整備スケジュールを見ると、今年度から令和8年度に向けて、施設整備基本計画、測量、地質調査、生活環境影響調査が行われるとある。その中で建設候補地について伺う。第3回理事会では白岩町のところが選定されているが、この3か年の中でいろいろ調査して変更されるということもあるのかどうかについて伺いたい。

○環境課長 現状、そこの地点で調査、基本計画を策定して、併せてその下にある測量、地質調査、生活環境影響調査というものを行うので、恐らくこの中で候補地を変えるということはないかと思う。一応、一定程度の調査が進んで報告できるような段階になったら、また市民への説明会を開催するという方向で動いているので、それが1年とか1年半になるかと思う。そこでまた皆さんの意見を伺って、どういう対応をしていくかということとは変わる可能性があるが、現状変わることがあるのかということについては私には答えられない。申し訳ない。

○副委員長 そのことについては分かった。それで測量・地質調査、生活環境影響調査などは令和6年度から線が引かれているが、もう今年度辺りから始まっているのか。

○環境課長 施設整備基本計画については、本年4月26日に既に発注して契約が済んでいる。この幹事会等でそれを踏まえて協議も進んでいる。生活環境影響調査については、同じく6月20日に発注して契約が済んでいて、今年度から1年程度を予定しているが、10月くらいからの実施を予定していて、広報ぬまた9月号や利根沼田広域市町村圏振興整備組合において周知をして実施するような予定となっている。

○市民部長 委員長よろしいか。

○委員長 市民部長。

○市民部長 休憩願う。

○委員長 休憩する。

(休憩 午後1時56分から午後1時57分まで)

○委員長 休憩前に引き続き会議を開く。環境課長。

○環境課長 私からもう一度、御説明させていただきたい。先ほど質疑をいただいた基本計画と生活環境影響調査についての関係であるが、基本計画のほうは4月26日に契約して

実施している。生活環境影響調査については6月20日から契約をして先ほど申し上げたとおり10月から調査に入るというような計画で動いている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 次に、調査事項2「環境フォーラムぬまたの来場者数と周知の状況について」質疑はあるか。鈴木委員。

○鈴木委員 テラス沼田1階でやる以前、保健福祉センターの頃からあのイベントが好きでよくお邪魔させてもらっていた。この何年間かずっと動向を見させてもらっている中で出店している人たちの高齢化が著しく、どの団体も若返りをしていないと感じてしまう。今、2団体なくなっているが、このまま高齢化してだんだん減っていったことが想像できる中で、例えばどのようなバックアップだったり、助成だったり……。それぞれ活動している人たちが後継者を見つけて入れ替わりしていくことが大事なのではないかと思う。それはもう団体に任せているということなのか。当局として何か支援ができて、活動がしやすくなったらいいのにと思うのだが、その辺について課長の考えを伺いたい。

○環境課長 環境フォーラムの関係で出展している人は長く同じ人がしているというような形である。おっしゃるとおり、熱心にやってくれる人はずっと続いていて入れ替わりがなかなかないというようなところはあるかと思うが、こちらで内部の活性化をどうして欲しいというような話はさせていただいてはいない。また、助成というような形で「ぬまた環境ネット」というところに委託料を渡して、それぞれの活動に対して補助金を交付して活動のバックアップをしている状況である。今後の団体の活性化ということで何かこちらのほうから働きかけができるようなことがあればしていきたいと思う。ちなみに環境フォーラムの来場者数ということで資料5に示させていただいた出展団体数についてであるが、おっしゃられるとおり13団体が11団体になっているというような状況ではあるが、1つは白沢町の団体である。少し休憩していたのだが、また新たな人が今後活動するというような形で話を聞いているので、またそういう部分では増えてくるかとは思っている。また、もう1つは利根実業高校である。今まで出展だけしていただいていたが、顧問の先生が変わったりとかというような事情があって不参加になったというような状況である。継続して活動してきていただいている市民の団体の人は変わらず参加していただいているというような状況になっている。

○鈴木委員 イベントの中身の方向として、活動している団体の人たちの活動報告の場になっているのかなととても感じている。ただ、これがそのまま減少してしまうと、イベントの規模がどんどん縮小してしまう方向が見えてしまう中で、例えば10年ぐらい先を見据えた場合、これからどういったアプローチが必要なのかということを考えているのかということと、毎年感じるのだが、団体の関係者の来場は見受けるが、一般の人の来場者が寂しいと感じる。そこに関して今後どのような取組を検討されるのか。今時点で検討されていることがもしあれば教えていただきたい。

○環境課長 参加している団体の活動の報告というような形で展示していただいているわけであるが、縮小していくというような形を心配されてということであるが、現状では先ほども申し上げたが、こちらとして「活性化してください」というようなお願いは会議の

中で当然することもあるかと思うが、明確にどうしていきましょうとかというところは細かい内容で打ち合わせはしていないので、そういった会議の場でそういったことが、どうでしょうというようなことを協議させていただくようなことができればと思う。おっしゃるとおり会場には大変ありがたいことに関心を持った人に来ていただいているので、それはそれでいいのかなというような気がするが、それ以外の人に来ていただいて、楽しかったとかそういった満足度が上がるようなことができればいいなということで今年はその表に示させていただいたとおり、ポップコーンの無料配布であるとか、環境クイズ大会といったものを新たに入れたので、そういった取組を考えながら集客できるようなことを考えていきたいと思う。

○鈴木委員 感謝する。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で環境課を終了する。

○債権管理課長 委員長、発言よろしいか。

○委員長 発言を許可する。債権管理課長。

○債権管理課長 先ほど保留した件について回答させていただく。まず生活困窮のところでは以前の滞納についてはどうかというところである。水道料金については、令和4年度に徴収停止をかけた分ということになるのだが、これに関しては従前を含め、ここに含まれている。相当期間ということにしていて、その相当期間というところが沼田市の場合は1年と見ているので、停止後1年で債権放棄ということになる。もしその以前に例えば税などで滞納があった場合については、また税のほうで調べて生活困窮の要件であるとか、そういったところで徴収停止をかけて、不納欠損という形になるので、そちらはここにあるものとはまた別の形での対応になる。

もう1点である。第4号の債権放棄の事由について、先ほどと同様のような形になるのだが5番から9番までになる。こちら先ほど申し上げたとおり令和4年度に徴収停止をかけた分になるので、おおむね1年というところで令和5年度に債権放棄という形になっている。よろしく願います。

○委員長 御了承願う。

(5) 今後の日程について

○委員長 次に、次第(5)今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の説明のとおりとしたいと考えるが、よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは、そのようにしたい。以上で、市民部各課の所管事項報告を終わる。
(市民部 退室)

(2) 市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換

○委員長 それでは、次第(2)市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換に入る。委員から調査事項はあるか。
(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 ないようなので、また、健康福祉部のときにでも皆さんからあればそのときに発言願う。

以上で市民部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を終了する。

○委員長 休憩する。
(休憩 午後2時5分から午後2時6分まで)

(3) 健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明

○委員長 休憩前に引き続き会議を開く。
それでは、次第(3)健康福祉部各課の所管事項報告・調査事項説明に入る。
まず、社会福祉課の所管に係る事項について説明願う。社会福祉課長。
(安原社会福祉課長 説明)

ア 社会福祉課

・調査事項

1 フードバンクぬまたの利用対象者と利用状況について

○社会福祉課長 社会福祉課の所管に係る事項について説明する。

調査事項1「フードバンクぬまたの利用対象者と利用状況について」説明する。

お手元のフードバンクバンクぬまたのパンフレット、開いて左上を御覧いただきたい。

フードバンクは食品ロス対策として、食品ロスの削減や環境への負荷軽減などを目的に行われるものであるが、福祉施策としての印象が強く、本来の目的とは少し異なるような取組として認識されているかと思う。福祉分野ではそれを利用させていただくものかと考えているが、提供する側となっているのが現状である。利用についてであるが、フードバンクぬまたでは生活困窮者自立相談支援事業における相談者で食料の提供が必要と判断された人に対して1回当たり大体2週間分の食料品を原則3回まで提供している。

左下に仕組みとあるが、フードバンクぬまたの実施者であるNPO法人利根沼田地域ボランティアセンター「ごったく広場」において、本市の相談窓口で発行した証明に基づき食料品を提供している。

また、賞味期限切れ間近な食料品等は、ごったく広場の判断で社会福祉協議会やNPO法人へ配付し、有効活用していただいている。

次に、食品をいただける人とその量のバランスについてである。

資料2 ページを御覧いただきたい。

令和5年度の実績では、受入れが1,385.7キログラム、提供が1,443キログラムとなっており、提供が受入れよりも多くなっている。一部、レトルト食品を購入して対応しているなど、預かる食料品にも偏りがあり、バランスのいい食料品の提供とはなっていない現状がある。

次に、次第にはないが、先月の常任委員会において後日提出させていただくこととした資料を配付させていただいた。

沼田市年代別自殺者数(男女別)過去5年とある資料を御覧いただきたい。

1 ページ目は本市の年代別の数値を掲載した。

2 枚目以降は、令和5年度版自殺対策白書の抜粋である。数値は令和4年度のものとなるが、先月話をさせていただいた国の数値が掲載されているので御覧いただきたい。

次に、就労移行・就労継続支援事業所の利用状況についてであるが、最後のページに資料がある。障害福祉サービス事業所、就労系事業所の利用者ということで、本年5月現在の各事業所の定員、登録をしている人の人数、利用率等を記載した。こちらにあるB型の事業所については、5事業所ある中で、実際の利用ではほぼ100%の利用があるのはアルモニのみという状況である。現在は希望する人がいれば利用することができるような状況となっている。参考として、地域活動支援センターについて下段に記した。こちらでも定員に対しての利用率はまだまだ余裕があるので、障害を持つ人が働きたいという場合には施設を選ぶことができるという状況になっている。

説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。

調査事項1 「フードバンクぬまたの利用対象者と利用状況について」 質疑はあるか。井上委員。

○井上委員 食品の受入れのほうで米以外の食料というのはどのようなものを受入れているのか分ければ教えていただきたい。また、配布についてであるが、大半が保護係を経由して配布になっていると思うが、以前に比べて量が増えているとか減っているとか、その辺の傾向がもし分かるようであれば教えていただきたい。

○社会福祉課長 そちらの令和5年度の受入れの品目ということであるが、実施しているごったく広場のほうで細かくつけるのが大変であるということで食料というような形で記載させていただいている。重量からいうと米の割合が非常に高いという状況である。過去の令和2年度であるとか、令和3年度のときにはどのようなものがあるかということについては少し細かい資料がある。その中ではカップラーメンであるとか、缶詰、それからふりかけ、インスタントの味噌汁、調味料、ジュースやお菓子類なども受入れをしていたような実績がある。それから提供の量についてであるが、ごったく広場は令和元年度からこのフードバンク事業を行っていて、提供については年々増えているような状況にある。開始当初は受入れも839キログラムとそれほど多くなく、提供が757キログラムである。2年目の令和2年度が810キログラムで、令和3年度は847キログラムと徐々に上がっていて、令和4年度はかなりの量を出してはいるが、そこが2,616キログラム。令和5年度は受入れが減って、その分で出るほうも減っているのかと思うが、資料にあるとおり1,443キロ

グラムというような形になっている。社会福祉課を經由して相談されている人数は年によって違って、回数が多いから食品が出ているというわけではないので、賞味期限が近いようなもので、社会福祉協議会であるとか、ほかのNPOに提供させていただいているような食品が多いときに提供する重量が多くなっているような状況である。

○井上委員 回数と量とがそれほど関係ないということで、個人個人で持っていくときには、2週間分なのでそれほど重量ベースであると大きくないということであると思うが、回数が増えているということは、やはり困窮世帯が増えているのかなという気もする。その辺、こういった数字の傾向から何か困窮対策など検討されたりしているのかどうか。あと、渋川市や太田市のフードバンクなどに大量に持っていっているところがあるが、全体で見ると受入れよりも配布のほうがキロベースで多いので、その辺、足りなくなった分は購入というように言っていたかと思うが、予算的には市の社会福祉課から出ているのか。確認させていただきたい。

○社会福祉課長 まず、困窮対策というところであるが、件数とすると昨年度は72回、そちらの資料の数を足していただくとうちのほうがあるのだが、その前、令和4年度は48回、令和3年度は69回とちょっと波があるような状況である。実際の窓口として見ると、件数自体は多いが、1人の人が原則3回ではあるが、多く利用されているようなときもある。人数的には恐らくそれほど変わらない推移になっていると考えている。最終的に相談事業に来ているので、その人の相談内容によって、就労の支援をしたりであるとか、家計の相談をしたりであるとか、本当にもう困窮で生活が厳しいということであれば、生活保護制度の案内であるとか、そういうような形で対応をさせていただいている。それから提供する側が多いという部分であるが、過去に受け入れた食品で余っている部分というか、一番は米であるが、米は少し取っておいているのでそれを提供していて、受入れよりも多くなっているという状況かと思う。ただ、バランスよく、米だけとかにならないように足りない食品についてはごったく広場の資金のほうで購入していたりであるとか、社会福祉協議会のほうから提供させていただいたりとかという形で不足を補っているような状況である。

○井上委員 最初に課長から説明があったように、フードバンクは元々余った食料をうまく回しましょうという制度であったと思うので、社会福祉協議会がメインではないような気がするが、実際問題、環境課であるとか、そういうところでやっているのは環境フェスだけであると思う。それ以外の普段のフードドライブはそれほどないと思う。そういったものをもう少し環境課と連携して、受入れ体制を増やしていくような動きはあるか。

○社会福祉課長 今のところ環境課とそういった受入れを増やそうというような取組はしていないところではあるが、ごったく広場のほうでかなり食品を集めていただく努力をさせていただいており、少し減っているような状況ではあるが、今のところは足りないという状況にはなっていないというふうに認識している。

○委員長 ほかに。副委員長。

○副委員長 受入れはごったく広場のほうで行っているということで、それをあそこのスペースにずっと置いておくのではなくて、保健福祉センターのほうに場所があって、管理されていると思うのだが、いただいたものの何て言うか、種別とか、そういったものの管理は誰がやっているのかということと、先ほども課長から原則3回ということがあるけれ

ども、その人の事情によってはいろいろ柔軟な対応をされているということであったが、やはりそういう人たちはこの配付先による保護関係であるとか、そういった人たちの中でなかなか環境が整わないで困っている人が多いのか。そういうことについて伺う。

○社会福祉課長 まず、保健福祉センターで保管しているものの管理ということであるが、保管先は保健福祉センターのほうで一応倉庫みたいな形で食料品はそこにまとめて管理をしている。仕分けというか、いただいたものの記録はごったく広場のほうで受入れのときにさせていただいているというような状況である。それから複数回利用されている人がそういう施設であるとか、そういうところの人かということにはそういう福祉関係の施設の利用者とかではなくて、食料品がないであるとか、そういう形でいらっしゃる人がいる。実際には相談に来るので、その家計の状況なども確認はするがお金の使い方が……。食料品に回さないで違うものに使ってしまって、食料品がないというような形で来る人が割と多いというような状況である。お年寄りの人もいるが、年金が入るまで、ちょっと食料品がないのと言われると、それも駄目であるとも言えないので、そういうときには3回とはいえ、それ以上出していたりとかそういうような状況になっている。

○副委員長 それではそういった人たちに配付されたパンフレットにあるようにテラス沼田や保健福祉センターで差し上げているということを理解した。受入れと配付先の状況の食品名の欄については食料となっているが実際には細かく何々ということは把握していて、それに応じて差し上げているということではよろしいか。

○社会福祉課長 食料品について、今は何がいくつあるということをは細かく管理していない。大体一人前というか、2週間くらい持つようなぐらいで、ある食料品を均等にコンテナみたいなものに入れて仕分けをしていて、食品が偏らないような形で仕分けをして管理をしているというような状況であり、その中に何が入っているかということまでは細かく管理をしていない状況である。

○副委員長 分かった。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 報告事項にはないが、先ほど課長から説明があった自殺者の状況、障害福祉サービス事業所の利用者の状況について皆さんから何か発言はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で社会福祉課を終了する。

次に、子ども課の所管に係る事項について説明願う。子ども課長。

(阿部子ども課長 説明)

イ 子ども課

・調査事項

1 沼田市ファミリー・サポート・センターの利用状況について

○子ども課長 子ども課の所管に係る事項について説明する。

調査事項1「沼田市ファミリー・サポート・センターの利用状況について」であるが、3ページを御覧いただきたい。ファミリー・サポート・センター事業については、生後3か月から小学校6年生まで子供がいる市内在住・在勤の保護者で子育てを手伝ってほしい人を「お願い会員」、子育てを手伝いたい人を「まかせて会員」、手伝ってほしいと手伝いたい両方を兼ねる人を「どっちも会員」として登録して、会員相互の援助活動として、子育て支援を有料で行う事業である。

4ページの資料1のファミリー・サポート・センターの利用状況を御覧いただきたい。

まず1の会員数についてであるが、令和3年度については、依頼会員であるお願い会員が492人、提供会員であるまかせて会員が53人、依頼・提供会員であるどっちも会員が42人と合計587人まで増えたが、令和5年度には、お願い会員420人、まかせて会員46人、どっちも会員31人、合計497人と減少している。

次に、2の活動状況についてであるが、令和元年度には446回の利用があったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、思うような活動が行えず、利用回数が減少し、令和5年度には155回にまで減少している。

少子化により子供が少なくなっている状況や年間を通じて定期的に利用していた人が利用する必要がなくなったケースも利用回数に影響していると考えている。ファミリー・サポート・センターの利用については、市のホームページや子育てガイドブックへの掲載や子ども広場の利用者への案内などにより、今後も継続して周知していきたいと考えている。また、今年度は、広報ぬまたに掲載し、広く周知を行う予定となっている。

説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。調査事項1「沼田市ファミリー・サポート・センターの利用状況について」質疑はあるか。井上委員。

○井上委員 会員数が令和5年度は497人、利用合計155件ということで実質3割くらいの稼働率で同じ人が複数回使っているだろうということを考えると、実際に利用している人は登録者数の1割から2割くらいになると思うが、実際に何人くらいの方が実際に利用しているのか。数字で分かるようであれば教えていただきたい。あと、この数の減り方を見るとコロナ禍で利用が減ったということもあると思うが、ニーズと活動状況の中身がマッチしていないという気がしてくる。その辺の検討状況を伺いたい。

○子ども課長 実際に利用している人の数ということであるが、子ども課としては人数での報告はしていただいている。実際に使った回数という形、活動状況の回数という形で報告をいただいているので、統計上の人数というものはとっていない。それから実際のニーズと活動内容がマッチしていないのではないかなという御質疑であったと思うが、やはり子供が少なくなっているという状況で仕事をしている人で保育園等に預けられる人、待機児童も現在いない状況にあるので、利用が少なくなっているというところであると思っている。ただ、時間単位で保育の必要性とか関係なく、買い物であるとか、冠婚葬祭であるとか、子供の学校行事であるとか、時間単位で短い時間でも預けることができる沼田市の事業はファミリー・サポート・センターであるので、こちらの活動の周知、PRをさせていただいて、万が一の場合に備えて、まず登録をしていただいて、利用の必要があるときに安心して利用していただける体制をとっていききたいと考えている。

○井上委員 事業自体は非常にいいと思うし、利用者が増えて、少ない金額で相互利用と

いうのは非常にいいと思う。使ってくれる人が増える分には一向に構わないし、どんどん増えてもらいたいと思う。使わなくても済むのであれば、保育園等をもっと充実させるという方向性もあるかもしれないし、こういった相互の預けて、預かってという形ではなくて違う方法も考えられると思う。これだけに固執してしまうと事業を残すためみたいな形になってしまうので、数が減っているということは間違いのない事実なので、どうやって増やすかということもそうだが、いつか子供が減っていけばどこかで止めなければいけないことも出てくるので、その辺も含めて、ちょっと長期的な視野で検討を進めていってもいいかと思うがその辺の考えを伺いたい。

○子ども課長 近隣他市の状況であるとファミリー・サポート・センターの中で産後ケア事業であるとか、宿泊を伴う事業であるとか、沼田市では行っていない事業をやっている市もある。その辺も含めて研究させていただいて、今後参考にさせていただければと考えている。

○委員長 ほかに。鈴木委員。

○鈴木委員 私、ひとり親で子供2人を育ててきたのだが、振り返ってみて、とても大変なときもあったし、とても人の手を借りたいときもあったはずであるが、子育てが一段落するまでこの制度に気づくことなく過ぎていた。本当は必要な人がいるのだが、まだ情報が届いていないのかもしれないと見受けられるのだが、それに対して検討が今後されるのか。それと、井上委員の質疑と重なるが、利用状況が155件ということでこれがもし万が一、本当に数人が何十回も利用しているということであると、この制度自体がもう破綻してしまうという気がする。そうすると状況を見ながらということももちろんであるが人数の把握はマストではないかと思う。そこについて意見を伺いたい。

○子ども課長 現在は活動回数の把握をさせていただいているだけなので、今後、人数での把握ということも検討させていただきたいと考えている。また、制度を知らなかった人がいらっしゃるのではないかということなので、今年度も先ほど説明させていただいたが、しばらく広報ぬまたでの周知をしていなかったもので、今年度はまず広報ぬまたで市民に知っていただいて、子ども課に相談に来た人にもチラシ等で周知させていただいているので、継続してさせていただければと思う。

○鈴木委員 多分私も行政へ相談に行ったときに、恐らく「こういう制度がありますよ」と見せてもらっていると思う。だが、実際にこういう制度があるから、もう一步踏み込んで利用しようと思っていなかったから、この制度が自分の生活にストンと落ちてこなかったのだと思う。そうすると、今までの周知方法だったり継続していても、もう一步踏み込んで制度を利用するまでに到達しないのかなと思う。それに対して何か工夫とかがもし検討される余地があるのであれば伺いたい。

○子ども課長 周知の方法については、ホームページであるとか、子育てガイドブックなどにも掲載して、妊娠届が出されたときに、ガイドブックも配付することによって、保護者に周知させていただいている。それから、子ども広場や地域の子ども子育て支援拠点等にも保護者と子供が来るので、そういったときにもチラシを配付させていただいたり、3か月に一度、ファミリー・サポート・センターでファミリー・サポート・センターのニュースを発行しているので、そちらも配付させていただいて、できる限り、周知の機会を多くして、広く皆さんに知っていただくことから始めさせていただければと思っている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で子ども課を終了する。

休憩する。

(休憩 午後2時38分から午後2時43分まで)

○委員長 休憩前に引き続き会議を開く。

次に、介護高齢課の所管に係る事項について説明願う。介護高齢課長。

(小野介護高齢課長 説明)

ウ 介護高齢課

・調査事項

1 高齢者の移動支援の現状について

○介護高齢課長 介護高齢課の所管に係る事項について説明する。

調査事項1「高齢者の移動支援の現状について」説明する。

6ページの資料を御覧いただきたい。

高齢者の主な移動支援ということで関連があるので、介護高齢課所管以外の事業についても説明する。

まず、「1 ぬまくるの運行」についてである。この資料で「ぬまくる」と記載があるものは「デマンドバス」についての内容となることを御了承願いたい。

こちらのぬまくる、デマンドバスは予約をすることで、希望の日時に市内に設置された500か所を超える乗降ポイント間をバスで移動できるものである。乗降ポイントは高齢者にとって利便性が高いように住宅地の近くのほか、病院や商業施設にも設置されている。運行日、運行範囲は記載のとおりであるが、運賃については、65歳以上の人は1乗車400円のところを「ぐーちょきシニアパスポート」の提示又は高齢者バス利用促進事業の利用で半額の200円で乗車することができる。

次に、「2 高齢者バス利用促進事業」についてであるが、65歳以上の人がデマンドバスや路線バスの運賃支払時に証明書を提示し、ICカードによる決済を行った際に運賃の半額を補助している。バスの運行については企画政策課が所管しているが、高齢者バス利用促進事業については介護高齢課が所管している。ICカードは、既にお手持ちの各種交通系ICカード、ICカードを持っていない人には関越交通沼田営業所で新規発行してもらうことができる。対象路線は市内を運行している関越交通バスの路線及びぬまくるのデマンドバスのAエリアとBエリアとなる。

ここまでの説明は65歳以上の高齢者であれば、どなたでも利用できるものである。

次に、「3 タクシー料金補助事業」についてであるが、タクシー料金の基本料金を助成するものである。対象者はタクシー以外の交通機関を利用することが困難で、通院介助等を必要とする在宅高齢者のうち市町村民税非課税世帯で、介護保険法に規定する要介護者及び要支援者又は介護予防・日常生活支援総合事業対象者である。年間30枚を限度とし

てタクシー券を交付している。

次に、「4 通院介助」についてであるが、こちらは介護保険によるサービスで通院などを目的とした乗車・移送・降車の介助となる。対象者は記載のとおり、要支援・要介護の認定を受けた人である。

以上のとおり、公共交通機関を利用する際の運賃の支援から要支援、要介護者への通院介助までニーズに合わせて利用していただいている。

説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。調査事項1「高齢者の移動支援の現状について」質疑はあるか。井上委員。

○井上委員 1から4までそれぞれ説明していただいた。利用人数がもし分かるようであれば教えていただきたい。あと、2番でICカードを使うと半額になるということであるが、これは半額助成の200円のさらに半額になるということか伺いたい。

○介護高齢課長 まず、利用人数についてであるが、1番のぬまくる、デマンドバスであるが、全体の利用者数というのは所管が違うので把握はしていないが、高齢者のバス利用促進事業ということで、オンデマンドに関わらずということになってしまうが路線バス、ぬまくるの利用であるが、昨年度は7,580回の利用だった。それと、ICカードの利用で200円の更に半額になるのかという質疑についてであるが、こちらは通常の乗車の400円のもの200円になるということである。

次に、タクシー料金の補助事業については、令和5年度の利用枚数は1,037枚である。

次に、通院介助については、手元に数字がないので答えかねる。

○井上委員 総利用回数ではなく、もし、人数で分かるようであれば教えていただきたい。無理であれば結構である。あと、今年から介護計画が新しくなって、やはりそのアンケート結果の中でも、こういった移動支援が足りないというアンケート結果が出ている。それは周知が足りないのか、実際細かいところに手が届かなくて利用者が伸びないのか。その辺の分析をされているようであれば伺いたい。

○介護高齢課長 まず、人数についてであるが、順番が前後するが、タクシー利用券の配付者数、登録者数ということであれば数字が分かる。65歳以上の人136名に配付している。

次に、高齢者バス利用促進事業のICカード登録者数については、昨年度は229人が登録している。

人数で今押さえているところは以上である。

次に、移動支援が不足しているのではないかという質疑についてであるが、アンケート結果では不足しているかというような意味合いで設問を設けてはいないが、アンケート結果の外出を控えているかについての設問では、外出を控えていると答えた人が19.7%だった。さらにその理由について交通手段がないと答えた人が12.6%いたので、それらの数字から類推すると全体の2.5%程度の人が交通手段がないために外出を控えていたということが伺えるかと思う。また、生活の困り事やあると助かる支援等についてという回答のうち外出支援と回答した人が2.7%だった。以上2つのアンケートから実際に外出支援に結びついていない人は2.5%前後でそう多くはないと考えているが、今後はそうした人にも支援が行き届くように周知に努めていく必要があると考えている。

○井上委員 生き生き長寿のまちづくり計画のアンケートの結果の中で、今後の在宅生活

の継続に必要と感じる支援サービスについて、分母は分からないが、やはり18%の人が移送サービスが必要であると言っている。全部か分からないし、特定だったり、一部のグループの中の18%かもしれないが、率で見ると割と多い率で移送サービスが足りないという結果が出ている。生き生き長寿のまちづくり計画の23ページにある。まず周知をしても、先ほどのファミリー・サポート・センターのこともあるが、周知が足りなくてそもそも利用できないという人がいるかもしれないし、特に、バス利用促進のほうは229人ということで多いとは言えない人数なのでもう少し増えていかないとこの辺の移送サービスが足りないという人は減らないのかという気がする。その辺の考えについて伺いたい。

○介護高齢課長 生き生き長寿のまちづくり計画の23ページのアンケート結果については複数回答が可能ということもあって数字が伸びていると考える。ただ、ここで将来にわたって在宅生活の継続に必要と感じるサービスということなので、必ずしも不足しているサービスということではないと考えている。こうしたサービスを維持して必要な人が使えるようにすることが大切であると考えている。それからICカードの利用も数字でいくとやはりまだまだこれから伸ばしていかなければいけないと考えている。先ほど人数と利用回数を報告したが、月を追って利用回数は増えていて、右肩上がりということは言えると思うので、これからもさらに周知を行って……。利用していただくととても便利なサービスであるということは分かっていたかと思うので、企画政策課とも調整しながら、効果的な周知の方法を考えていきたいと思う。

○委員長 ほかに。鈴木委員。

○鈴木委員 先ほど交通手段がないから外出を控えるということがあったが、だんだんそうなっていくと結局余計体が弱ってしまって不健康につながっていくと思う。また、これから沼田市の財政が厳しくなっていくって、でも、どんどん高齢者が増えるという状況が必ずやってくると思う。そういった場合に今の形の助成は多分どこかで限界がきて、地域での互助を後押しするとか、今の仕組みではない移動手段の応援プッシュ型支援みたいなことが必要かと思うが、そのようなことは今後検討されるか。現時点で分かることがあれば教えていただきたい。

○介護高齢課長 委員のおっしゃるとおりやはり外出を控えていると、体も衰えていくというところもある。あまり外出をしないようなひとり暮らしのお年寄り等に働きかけて、今、市で行っている事業、フレイルの事業、健康づくりの事業、地域の福トレの団体の活動といったところに誘うようなことも含めて行っていく必要があると考えている。やはり財政には限度があると思うので我々としても健康寿命を延ばしていただくような活動というのは引き続き必要であると考えている。

○鈴木委員 例えば、まだ元気なお年寄りが、弱ったお年寄りの面倒見るということが、その人の生きがいになるということもあるだろうし、見てもらうことによって、健康寿命が延びるということもあって、その人同士、ニーズをマッチングさせるような仕組みができて、互助の関係がうまくできるとこちらが一方的にずっと支援してお金を与えるのではなく、その地域ごとに言い方は悪いが勝手に元気になってくれるのではないかと思う。援助することばかりがこちらのやることではなく、もしかしたらその地域のコミュニティの仕組みづくりができさえすれば、まちが勝手に元気になってくれるのではないかという視点もあると思うのだが、課長の率直な考えを教えていただきたい。

○介護高齢課長 地域での交流みたいなものがあると、出かけやすいと思うし、包括支援センターには市の委託事業としてそうした取組も行っていただいているところである。いずれにしてもそういった地道な取組は必要であると思うのでそういったところもさらに推進していければと考えている。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で介護高齢課を終了する。

次に、健康課の所管に係る事項について説明願う。健康課長。

(鶴淵健康課長 説明)

エ 健康課

・調査事項

1 小児医療体制の充実に向けた検討の状況について

○健康課長 健康課の所管に係る事項について説明する。

調査事項1 「小児医療体制の充実に向けた検討の状況について」説明する。

資料8ページを御覧いただきたい。

6月議会閉会后、群馬県が開催した「第1回北毛圏域周産期・小児救急等医療提供体制の確保に関する検討会議」に川田副市長が星野市長の代理として出席した。

また、星野委員から6月議会一般質問の通告後に、本市ホームページにおける子ども医療電話相談、#8000の表記が分かりにくいとの御意見をいただき、速やかに改善を図ったところである。

今後については、小児医療体制の充実に向けて、機会を捉えて関係機関に働きかけていきたいと考えている。

また、資料に記載はないが、先月24日水曜日、NHKラジオ第1で全国に生放送された「市制施行70周年記念事業 夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」についてである。皆様方の協力により約1,200人の参加をいただき盛大に開催できたことを報告する。

説明は以上である。

○委員長 説明が終わった。調査事項1 「小児医療体制の充実に向けた検討の状況について」質疑はあるか。齋藤委員。

○齋藤委員 一般質問で先輩議員が聞いたすぐその後でまた今度調査事項で上がるというのは失礼かとも思ったが、どうしても子育て世代のお父さん、お母さんから上がる声が多い。私も実際、まだ小さい子がいるのだが、#8000も完全には機能していない。そこで聞いても返ってくる答えはもうありふれているというか、分かりきっていることを言われる。それが実際の気持ちである。これ沼田市単独で小児医療体制をどうにかしようという動きよりも広域圏で考えるような方向なのか。

○健康課長 本市には、市立病院はないので、本市としてすぐすぐどうこうできるということは残念ながらない。沼田利根医師会では休日夜間急患診療の提供をしていただいているが、そちらも利根沼田広域圏の事業として、沼田市は負担金を支出しているというよう

な状況である。一般質問で市長が答えた内容としては、医師会それから、群馬県、それから国等に機会を捉えて働きかけてまいりたいということであり、要望等はこれまでも上げているが、今後も、そういったところに要望を続けたいと考えている。

○齋藤委員 広域圏で事業をやっているところに市が負担金を払っている。例えば今後、国の交付金とか、財源確保が新たにできるような余地はあるか。

○健康課長、現在のところそういった財源があるという情報を入手していない。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 なければ以上で健康課を終了する。

以上で健康福祉部各課の所管事項報告を終わる。

(5) 今後の日程について

○委員長 次に、次第(5)今後の日程について、ア 次回の委員会について、事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 説明が終わった。次回の委員会については、事務局の説明のとおりでよろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 それでは、そのようにしたい。

(健康福祉部 退室)

(4) 健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換

○委員長 それでは、次第(4)健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換に入る。意見はあるか。戸部委員。

○戸部委員 テラス沼田6階の子ども広場の利用状況について確認したい。結構な利用状況と聞いている。

○委員長 今、土日はどうか。

○戸部委員 コロナ禍で止まっていて、予約制になった。それからどうなっているのか。現状を聞きたい。

○委員長 ほかに。井上委員。

○井上委員 先ほど鈴木委員が言ったように、地域の互助の仕組みづくりについてである。今からも動いておかなければと思う。一般質問でもずっとしているが、全く動いていない。多分、介護高齢課でそういう仕組みをつくるにしても今の反応からすればやはり厳しいという気がする。そうすると市民部市民協働課が中心となって互助の仕組みづくりに動いていくしかない。動いていなければ動いていないでも構わないが、その辺の状況につい

て、市民部市民協働課に確認したい。縦割りに介護高齢課に地域の互助の仕組みづくりをやるとしてもなかなか進まない。それを一時期進めたものも今は多分全く動いていない。お互いさまのまちづくりもある。違うところで市全体の地域の互助を進めないと進んでいかない。その現状を聞きたい。

○委員長 ほかに。健康保険証はなくなったか。

○井上委員 まだである。今年の7月には新しいものが発行されて、それ以後の新規の発行はないということである。

○委員長 それはマイナンバーカードとの紐づけを申し込んだ人だけか。

○井上委員 紐づけしていない人はプッシュ型で資格証明書が届くと聞いた。

○委員長 その人がどのくらいいるか。

○井上委員 前回、正確な人数は分からないと説明があった。沼田市の発行率に国の紐づけの割合を掛ける推計値で把握しているということだった。

○委員長 それが分かるのであれば。分からなければいい。

○事務局書記 前回の説明では正確な数値は分からないという説明だった。

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 調査事項について事務局にまとめさせる。

(事務局書記 説明)

○委員長 よろしいか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員長 以上で健康福祉部所管事項に関する調査事項検討及び意見交換を終了する。

(5) 今後の日程について

○委員長 次に、(5) 今後の日程について、イ 今後のスケジュールについて事務局に説明させる。

(事務局書記 説明)

(6) その他

○委員長 次第(6) その他について、事務局から説明させる。

(事務局書記 説明)

○委員長 ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 ないようなので、以上で本日の委員会を終了する。
(午後 3 時22分 終了)